

強い気持ちで全国の舞台へ

東鷹高校2年生の山本翔也くん(金田)が、2月5日~7日に佐賀県で開催された「全九州高等学校レスリング新人大会」の個人戦84kg級で準優勝の成績を取めました。「どんな相手



にも気持ちで負けないように」と試合に臨んだ山本くんは攻めのレスリングを貫き、今月末に新潟県で開催される全国大会への切符を手にしました。「目標は日本一です」と真っすぐなまなざしで語る山本くんは、大舞台に向けて気合十分です。

← 全国の戦いをイメージしながら技を繰り出す山本くん。練習にも力がこもります。

↓ 真っ白なゲレンデをさっそうと。一列の滑走もすっかり上手になった最終日。



技術に限らず心も育んだスキー体験

青少年育成町民会議主催の「冬季少年のバス」が1月29日から2泊3日の日程で行われ、広島県のホワイท์バレー松原を舞台に、小5から中1までの28人がスキーに挑戦しました。最初は雪の感触を探りながらの滑走でしたが、最終日にはきれいなシュプールを描くまでに上達。他校や異年齢という垣根を越えた集団体験から、助け合いの心をはぐくみました。

郷土愛を明るくさわやかに主張

小中学生が意見を発表する「わたしの主張田川地区大会」が、2月6日に地域交流センターで開催されました。市町村大会を勝ち抜いた9人が、学校生活や地域社会に対する思いを5分程度にまとめて発表。福智町代表として発表した香月海優さん(弁城小)は、「緊張しましたが、大舞台を楽しむことができました」とすがすがしい表情を浮かべていました。



↑ 約300人を前に地域への愛着を発表した香月さん。テーマは「大好きな私の町」。

↓ 歓声が響く体育館でコートをかけ回り、ハイレベルなプレーを見せた子どもたち。



過去最多チームが友情の連係プレー

町子育連主催のフットサル大会が、2月14日に中央公民館と赤池体育センターの両会場で行われました。子どもたちに人気の屋内サッカー競技に、過去最多の29チーム166人の小中学生が参加。どの試合も個人プレー以上にパス回しなどの連係が勝敗を左右し、回を重ねてレベルアップした今大会では、ポジションを意識したチームプレーが光りました。

↓ 「パワーポジション」での、正しいひざの使い方を指導する窪田コーチ(左)と石谷選手(右)。



後輩たちにプロの手ほどき

方城地区総合型地域スポーツクラブ主催のバスケットボールクリニックが、1月23日に方城中で開かれました。bjリーグ「ライジング福岡」窪田邦彦トレーナーと石谷聡選手(伊方出身)が、田川地区の小中学生に約100人に練習方法やボールさばきなどを指導。中学時代にプレーした体育館で参加者たちとふれ合った石谷選手は、「懐かしい体育館で地元の子どもたちから力をもらった。今度は自分がいいプレーをして恩返ししたい」と今月27日に田川市で行われる公式戦に決意を込めていました。

声 朗読ボランティア「青い鳥」が第23回筑豊賞受賞

町の広報紙を朗読して録音し、目の不自由な人たちに届けている朗読ボランティア「青い鳥」が、読売新聞西部本社提唱「あすの筑豊を考える30人委員会」から「筑豊賞」を受賞。桑野京子会長(赤池)は「筑豊地区で同様の活動を行う10団体の存在が励みになった。この賞は、これら全団体に対していただいたものだ」と謙虚に喜びを語りました。



↑ 2月7日、13年間の活動に対する表彰を受け、晴れやかな表情を見せる会員。

↓ ネットの利点や問題点、危険性について事例を挙げて解説した渡辺律子先生。



子どもとネットのいい関係を学ぶ

社会に浸透するインターネットにスポットを当てた青少年健全育成講演会(青少年育成町民会議主催)が、2月19日に公民館金田分館で開催されました。ハイパーネットワーク社会研究所の渡辺律子さん(講師)を迎え「ネット社会と子どもたち」と題した講演で、子どもを取り巻く環境をはじめ、情報モラルや大人の役割について約50人が理解を深めました。